

「鼻笛」との出会い

的場 昭二さん（第21 回卒）

みなさん、「鼻笛」といった楽器はご存じでしょうか？南米民族が神との交信に「人間の口は嘘を言う」ことから、「鼻笛」を使って交信していたと云い伝わっております。

私と鼻笛との出会いは、定年退職後に朝のある番組で、鼻息で音を出して楽しく奏でている番組に遭遇し、その楽器‘は鼻笛という楽器と解りました。場所は四日市駅付近の「高くて、まずくて、小さくて、それでもいつも満員です」をキャッチフレーズにしたある居酒屋で、「鼻笛カフェ」として開催しているとのことで、早速出かけて行き、鼻笛仲間の皆さんと出会うことができました。

これがきっかけで、津市で「鼻笛合奏団アミーゴ」が誕生しました。現在メンバーは38名で、津市内を中心に、津市のイベント及び、地域のふれあいサロン、老人ホームへの慰問等、様々なボランティア活動をしております。

鼻笛の一番の魅力は、なんといっても「音色」です。優しく心を癒してくれる音に魅力を感じます。また鼻笛の大きさはコンパクトで持ち歩ける便利さがあり、吹き方は口で覆い鼻息を吹きかけて音階を作りますので、メロディさえ解っていれば、直ぐに奏でることができるといった利点があり、誰でも、どこでも楽しめる楽器が「鼻笛」です。素材は、木、竹、陶器、粘土、プラスチックなどさまざまで、形も色々あります。愛好家の間では「三重県は鼻笛の聖地 ..」と呼ばれているんですよ。

毎年秋には四日市市で「全国鼻笛チャンピオンシップ」が、12 月には津市の四天王寺で「鼻笛第九の演奏会」が開かれ、全国各地から大勢の鼻笛愛好家が集まります。いづれもコロナ感染症がまん延している期間は開催できませんでしたが、今年は現在開催の準備を進めているところです。

これからも、この鼻笛の魅力を多くの方たちに認知していただく機会を得て、いつでも何処でも気軽に吹けて、「音もだち」の輪が広がることで、勇気と元気が繋がり、もっと大きな輪になることを願って活動していきたいと思います。

鼻笛にご興味をお持ちの方は、是非ご連絡お待ちしております。

○連絡先 的場 昭二 090-1563-9743 e-mail:matt10099@gmail.com



上野の森美術館に入賞して

有竹 和子さん（旧姓：伊藤 第24 回卒）

津商を卒業して 45 年以上過ぎました。美術部の顧問故野田眞章先生には、大変お世話になりました。そして四日市高校の美術の先生故鈴木田俊二先生には、たった 1 年間でしたが、たくさんのお言葉をいただきました。

今は、いなべ市の八島正明先生が私の師匠です。時間があれば東京に出かけます。東京都美術館や新国立の展示会場、銀座のスルガ台画廊さまもグループ展の時は必ず行きます。観光ではありますが、大学に行っていない私にとっては学びの場と思っています。諸先生方の言葉と自分の目で見てきた本物を拾い集め、この度の絵になりました。一時、染織に逃避していましたが、今後は絵の道に精進していきたいと思います。故鈴木田先生が、染織も無駄ではないと言われました。今思うと全くその通りです。ろうけつ染めの技法で溶かしたろうを和紙に飛ばし、地肌の色を最後まで残しました。

すみだ北斎美術館で見たきらすりの技法、ちひろ美術館で見た水彩の美しさ、福岡美術館で見た野見山晁治氏の 102 歳の油絵、赤と緑の美しさ、それらの溶合で、なおかつベースはアンドロメダ星雲のうず巻きです。

仕事である牛乳配達をしながら星や月の美しさに心動かし、人は土から生まれ土の物を食べ土に還る。地球も宇宙も一つではと思っています。

この度の上野の森美術館入賞は、いろいろな人との出逢いといういろいろな人の助けでいただけたと思います。本当に感謝いたします。ありがとうございます。

「築音ちゃん」水彩 S100



地域を大切に

服部 理佳さん（旧姓：坪内 第29 回卒）

深川屋 女将 関見世 吉右衛門、茶蔵茶房 代表取締役

東海道の宿場町「関宿」で江戸時代より続く和菓子屋 深川屋閨の戸本舗を営んでおります。先代の女将から仕事を受け継ぎ、早 10 年が過ぎようとしています。文化庁が選定する国の伝統的建造物群保存地区での商いは古くからのしきたりや伝統を守りつつ、その上でどの様に新しいスタイルを融合させていくのか、試行錯誤の連続です。 町づくりが商売に直結するため、地域の人々の連携も大切。活気ある町の未来を描きながら新しい会社を立ち上げ、空き家をリノベーションして、三重県の西の玄関口に相応しいセレクトショップを開店させました。

ところが開店 3 ヶ月でコロナ禍突入。本当に厳しい 3 年間を経験することになりました。守るべきものの優先順位。会社として描く未来の方向。今まで経験したことのない時代の体験は、机上では学べないことばかりでした。コロナ禍の真っ只中で以前から計画していた茶房の建築を躊躇し、先送りを考え色々な方に相談した時、町の人から言われた言葉が忘れられません。「地域の皆が楽しみにしている茶房の開店が中止になれば、町の人が今よりもっと不安になると思う…」地域を大切に、地元一番を心掛けてきた私にとって、なにより背中を押してくれた言葉になりました。

来年還暦を迎える私たちにとって、次の世代への商いの伝承が課題になります。日々動いている時代に、変えるべきものと、残すべき柱、そして明日何が起こるかわからないという新しいファクターを加えて繋いでいければと思っています。

お近くにお越しの際は 是非関宿にお立ち寄り下さいませ。お待ちいたしております。関郵便局前 深川屋 関地蔵院前 関見世吉右衛門 木曜日定休。

化粧品専門店を経営

中島 文隆さん（第43 回卒）

(有) 中島化粧品

イオン津内で化粧品店を経営しています。津商業を卒業後、いろいろな職業を経験したのち、親の跡を継ぐ為、東京で化粧品勉強を 2 年間し、津に戻り家業を継ぎました。たくさんのお客様、卒業生の方にもご愛顧いただいております。また従業員にも津商業の卒業生がいます。近くへお越しの際は、お立ち寄りください。

津商業高校に赴任して

松本 麻未さん（第51 回卒）

津商業高校教員

今年度より津商業高校に教員として赴任させていただきました、松本麻未です。2005 年度の 3 月に卒業し、教員として再び戻ってこられたことにとても驚きを感じると同時に、喜びも感じております。在学中はまだ就職をする友人の方が多く、大学進学を決めた自分には、これからどんな未来が待っているんだろうと思いながら卒業したことを今でも鮮明に覚えています。

高校 2、3 年時に大変お世話になった恩師に「教員として戻ってこい」という言葉をかけていただき、大学在学中に教員免許を取得し、気付けば 10 年以上経っていました。

津商業高校に入学したのが 20 年前。高校 1 年生の時には 20 年後教員として戻ってくるとは夢にも思っていませんでした。

今まで様々な高等学校で勤務してきましたが、津商業高校在学中にお世話になった恩師のようになれるかは分かりませんが、これまでの経験を存分に発揮し、少しでも津商業高校の発展につながるができるように頑張りたいと思います。

一生の思い出

坂倉 誠人さん（第63 回卒）

高校 3 年の夏、チームの目標であった「甲子園出場」を果たすことができました。甲子園で智辯和歌山戦に勝利することができたのも OB・OG の皆さまのご声援があったからです。

また、甲子園では私たちの持っている力以上のものを引き出してくれる場所でもありました。一球一球投げける度にアルプススタンドから聞こえてくる大声援、大歓声は今でも鮮明に覚えています。

これからの人生、どんな困難や苦難に立ち向かってでも最後まで諦めることなく何事にも挑戦する姿勢を貫き通して日々精進してまいりたいと思います。



楽しさの追求

市野 泰地さん（第57 回卒）

鈴鹿大学陸上競技部 コーチ

「ああ、この先、こんなにも情熱を注げて、ワクワク出来るものに出会えるだろうか…」1 年半前、現役最後のレースが終わった瞬間、そんな想いが湧いてきた。高校から本格的に始めた陸上競技・800m を 15 年間も続けられることが出来たのは多くの方々の支えがあったからだ。

たくさんの経験と素敵な縁に恵まれた本当に良い競技人生だった。だから、引退することに後悔はなく、最後まで楽しく走ることができたのだと思う。少し身体と気持ち休めた後、「またいつか陸上に関わることが出来ればなあ。」そう思っていた矢先、鈴鹿大学から陸上部の指導者としてのお話をいただきコーチに就任することになった。陸上部は自分がコーチを就任したと同時に再スタートした、まだまだ小規模なチームだ。しかしそんなことは関係なく、僕の中にあった情熱とワクワクは再び湧き上がってきた。

指導者として、大切にしていることはかつての現役時代と変わらず、「楽しさ」の追求である。「耐える努力は夢中には絶対に勝てない。」自分の考えを押し付けたり、上から一方的に指導するのではなく、学生と一緒に楽しみながら成長していく。そんな指導スタイルをとっている。

現在、大学以外にも幼児～高校生まで幅広い世代の子ども達を指導をする機会がある。無理やり練習させるのではなく、頑張るのは子ども達の自由。ただ、自分はスポーツの苦しさでなく、楽しさを伝えていきたい。その中で走ることを楽しんでくれたら自分はすごく嬉しい。

陸上競技での仕事が大きくなる一方、スポーツ界、陸上界にいい意味で染まらないよう意識をしている。精神的にも金銭的にも陸上界に依存してしまうと、自分の大切にしている人生観、スポーツ観をぶらさないといけな瞬間がやってくるのではないかと考える。

それでは自分の軸がブレるだけでなく、今まで感じていたワクワクが消えてしまう。なので、指導者として活動しながらも興味や、やりがいを感じる他の業界にも身を置くようにしている。そのおかげで、一つの出来事に対しても様々な視点から見られるようになり、毎日学びがある。

陸上に情熱を注ぎながらも、そこに依存することなく、心から自分の中にある「楽しさ」に従って進んでいく。今はそんな感じで人生を楽しんでいる。この先、どんな人生を歩んで、どんな自分に出会えるのか。僕自身が一番楽しみたい。



新しい一歩 (慶應大学入学！)

張 瑤依さん（第69 回卒）

こんにちは！昨年度の卒業生の張 瑤依です。私は今年の春、慶應義塾大学の総合政策学部合格し、今大学生活が始まってちょうど約 2 ヶ月が経つところです。この度は同窓会新聞で取り上げていただくことができてとても嬉しく思っています。

さて、私は高校時代から簡単に話すと、私は何でも興味があることにはチャレンジし、どれも手放したくないタコさんでした。文化祭で弾き語り、8 冠取得、部活では簿記部の部長として、クラスでは室長として、外部の活動では三重県のグローバル学生大使、ボランティア活動、NPO 法人日中英人材育成ネットワークを立ち上げるなどをしました。

現在大学では主に起業をメインの軸として勉強をしています。私は総合政策学部にいるのですが、この学部は特に決められたカリキュラムがないので、1 年生から全ての授業を自由に取ることが出来ます。私が今取っている授業には、有名な企業の CEO や NPO 法人の代表が講義をしにきてくださる授業があります。私の将来の夢は、起業をして会社を立ち上げることなので、大学で出会った日本各地・世界各地からの個性的な仲間達から刺激をもらい、協力、切磋琢磨しながらこの目標に向かって大学で頑張っていきたいです。

最後になりますが、2 つだけお伝えしたいことがあります。1 つ目は、津商業高校の卒業生であることを誇りに思っていることです。津商業高校の商業教育で学んだ「三方良し」の精神、津商業のモットである「挑戦・変化・進化」を今も大事にしています。素晴らしい学校に入学でき、友達・先生方と出会うことができたことを、私は本当にラッキーだなと思っています。在校生の皆さんも感謝の気持ちを忘れずに、日々を過ごしてくださいね！そして最後にもう 1 つ。人生に失敗はないこと。唯一あるとしたら、それはしたいことをしなかったことだと思います。そして後悔というものは失敗じゃなくて、やらなかったことなので、不可能だと考えずに、挑戦してみてください！



あこがれて、今がある

橋本 日出子さん（第8 回卒）

上弁財町（現・南中央）の自宅前道路で、夕方 6 時前後になると、コツコツコツ「ハイヒール」の音がして、歌手「淡谷のり子さん」に似たひとが通る姿を見るたび、心おどった。（私もいつかあの人の様に津税務署に勤務したい）夢に抱いた。

そのひと、近所のひとで、母と仲良しで、道路でよく話し合っていたが、私とは一度も言葉を交わしたことはなかった。

高校卒業後のある日母から、「淡谷のり子さんに似たあのひとがなあ。税務署で今、臨時職員を探していて、日出子さんに頼んでみて、と言われたんさ」と、告げられた。コツコツコツ、ハイヒールのお姉さまと一緒に津税務署勤務。うれしいなあ OK した。「資産税係」の担当だった。その後、総務課長から「松阪市の公認会計士事務所」へ勉強にもなるから行くように言われ、松阪市へ。

昼休み、近くの松阪城跡公園の高台から下を眺めて「名古屋」へ行きたいと思い始めた。

あこがれは、現実には、ALSOK「名古屋支社」（中日ビル内）の経理係に採用された。上役は全員、元警察官の職場で、10 年の歳月は流れていった。

それから、パートナーと自営業（自動制御装置製造工場）となったが、仕事は経理で。

卒業後、職場は変わったが、経理一筋で生きてこれたのは、津商卒のおかげ。としみじみ感謝。

そしてこの年の今。住んでいるマンション（中古で買った）管理組合の会計役員を 15 年。やらせてもらっている。

第45 回津商シニア会 ゴルフコンペを開催

山中 信昭さん（第12 回卒）

5 月 24 日（水）津市榊原 GC に於いて、第 45 回津商シニア会ゴルフコンペを開催しました。当日は雲一つ無い晴天で、5 回生～18 回生の先輩、後輩がグリーンでプレーを楽しみ、和気あいあいと交歓しました。東京から小田政美さん（第 5 回卒）、奈良から今井宣久さん（第 5 回卒）も参加いただきプレー後表彰式もかねて歓談し、楽しく終了しました。

さて、紙面をお借りして「津商シニア会」をご紹介します。ゴルフを通じて会員の健康増進と親睦を図ると共に津商同窓会の発展に寄与することを目的として津商 1 回生～5 回生の方々尽力くださり、平成 12 年 9 月に設立されました。資格は津商校の卒業生で 60 歳以上の者、津商校に在籍された先生です。春、秋年 2 回開催しています。競技はダブルペリア方式で、誰でも優勝（豪華賞品）できるチャンスがあり、他にも種々の賞品があります。「会」ですから会則はありますがそんなに難しい事はありません。私も平成 20 年 5 月第 16 回から参加をしています。27 回生（昭和 56 年卒）の方から参加資格があります。次回は 10 月 25 日（水）を予定しています。



連絡先は 090(3154) 3620 山中です。

皆様の寄稿をお待ちしております。

本校、同窓会事務局には直通の電話がありませんので、住所連絡などは必ずがきでお願いします。

【送付先】 〒514-0063 三重県津市波見町 699 三重県立津商業高等学校同窓会係

ぜひ情報交換
しましょう！

同窓会維持にご協力を 協力金について 一口 2,000 円

同窓会を運営していくにおいて資金が顕著に不足してきました。新聞発行にも郵送料や印刷、紙などが値上がりして、やりくりにも苦労しています。一層充実した活動を続けるためにも、2 年に一度の会報発行時に財源確保として皆様に協力をお願いしています。同封の振込用紙に記入の上、送金していただきますようお願い申し上げます。